

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町65
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

大きなしわ寄せの行く先は

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕

G8首脳会議を前に地球温暖化の問題が話題になります。かなり深刻であるとは聞いていますが、私たちが少々気を付けたところで大した影響がないと思いがちです。私も暑い時には冷やし、寒い時には温めています。極力歩くようにしていますが、これはガソリンの節約のためという訳ではありません。でもこの問題の深刻さを理解している人々は、自分たちにできることから始めておられるようです。環境学者の集まりに出席すると「あなたは何マイル飛行機で飛んできましたら、CO₂何キロ消費で、いくら寄付」とやられるそうです。温暖化対策に寄付されるのでしょうか。

カーボンオフセットという仕組みらしいのですが、CO₂何キロ排出したからそれに見合う寄付をするそうです。もちろん強制力はありませんが、自発的に参加することによって、自分の身の回りの生活からできるだけ無駄なCO₂排出を減らすわけです。コンビニでも会員を集めています。オフセット商品として販売されているCO₂「200キロ」を1050円で買うと、代金がアルゼンチンの風力発電事業に役立てられるそうです。本当に全部買い取るかはともかく、自分がどれくらいCO₂を排出しているかの計算方法も示されます。日常生活では空調、電灯の消し忘れ、子供と一緒に牧師館に住めばCO₂より光熱費を気兼ねする長時間シャワー、さらには「温水洗浄便器のふたは使うときだけ開ける」イエス・ノーのチェックリスト。面倒といえば面倒なことですが、やろうと思えばできることばかりです。

ちょっとずいかなと思う宣伝は、JR東海。「新幹線の1座席当たりのCO₂排出量は航空機の10分の1です」とやっています。でも、こんなことが、高い宣伝費を使って宣伝する価値があるとされる時代になっているのです。

お若くて優秀な司祭にランベス会議の通訳のご奉仕をお願いしました。快諾してくださったのですが、その見識に感心させられました。「ご提案のフライトは安いけれども、何々のデータを調べると飛行距離が長くCO₂排出量が多い。当然環境問題も論議されるであろうランベス会議へのフライトの選択とし

会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加
および4月25日以降)

- 4月
3日(木) 聖公会/ルーテル教会合同礼拝準備会
13日(日) 青年委員会
14日(月) 女性デスク会議
- 5月
9日(金) 総会書記局会
11日(日) 聖公会/ルーテル教会合同礼拝(東京、聖アンデレ教会)
12日(月)~13日(火) 文書保管委員会
13日(火) 主事会議
13日(火) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会(立教大学)
26日(月) 総会書記局会議
26日(月)(臨時) 主教会
27日(火)~29日(木) 第57(定期) 総会
- 6月
4日(水) 広報主査会
9日(月) 正義と平和委員会
17日(火)~19日(木) 主教会(東京、ナザレ修女会)
20日(金)~23日(月) 沖縄の旅
25日(水) 主事会議
29日(日)~30日(月) 青年担当者会(牛込聖バルナバ教会)
- 7月
8日(火) 宣教150年記念礼拝実行委員会
- <関係諸団体会議等>
- 6月
27日(金) NCC常議員会(牛込聖バルナバ教会)
- 7月16日~8月4日
ランベス会議(英国・カンタベリー)

てはいかがなものかと思えます」と丁寧に教えられました。そういう時代なのです。人任せではなく、自分たちでできることから始めないと手遅れになってしまうときであることは間違いないようです。

複雑な問題もあります。温暖化物質を抑えるためにバイオ燃料なるものが開発されています。もとはと言えばトウモロコシなどから燃料を作るわけですが、世界的にいえば決して余っているわけではない食料を燃料にしてしまうのです。どちらかといえば自動車はもちろん電気にさえ縁がない貧しい人々の食料であるトウモロコシの価格が、自動車燃料のために上がれば困るではありませんか。家畜の飼料でもありますから、いろいろな物価が上がります。豊かな人々には影響は少ないでしょうが、大きなしわ寄せは貧しい人々にきます。生きるか死ぬかの問題なのです。私たちの無駄は、貧しい子どもたちから食料を奪っているともいえるのです。温暖化物質排出権売買やバイオ燃料などは小手先のごまかしに思えるのです。富を分かち合うように、多少の不自由さは分かち合うしかないではありませんか。

最近の国連世界食料計画(WFP)に関する新聞報道によれば、現に途上国の学校給食が穀物の高騰で危なくなっています。1日1人わずか25円の給食がです。最低限の栄養を取らせるという意味だけではなく、給食があるから学校に来て教育を受ける、この学校教育の普及

が貧困からの脱却の第一歩なのです。さらに学校では基礎的な保健衛生の知識を教え、健康を守る働きもあります。残念ですが学校給食があるから学校に来るといった現実があるのです。

環境と貧困は複雑に絡んでいるようです。片方だけとはいかないようです。ですから「持続可能な発展」という注意深い表現を使います。実感はともかく豊かな国である日本の私たち、やはりできることから始めましょうよ。贅沢すれば、多少の寄付も必要かもしれません。しかしお金だけの問題ではなく、私たちの責任として考えなければならない問題ですね。子どもたちの将来のために私はこれだけはする、私はこれだけはできるということの積み重ねを大切にしましょう。

最後に聖公会神学院・ウイリアムス神学館の両校長先生からメッセージをいただいておりますが、私も新しく神学校での学びを始められた皆さんに一言お願いです。聖職が信徒よりも偉い訳ではないことなど百も承知です。しかし私たちに指導者としての責任があることも間違いない事実です。そのために、勉学にお励みください。過去の歴史認識と同じように、私たちの社会の将来に対する予言性をもった指導者が求められています。暑くなる時代にこそ冷静さと靈性が求められます。しっかりした勉学を経て、良きサーバント・リーダーシップを発揮されることを願ってやみません。

常議員会

第56(定期)総会后第8回 4月16日(水)
議案

1. 2007年度管区一般会計決算案承認の件(責任役員会議案)可決
2. 2009年～2010年管区一般会計収支予算案承認の件(責任役員会議案)可決
3. 2009年～2010年収益事業会計収支予算案承認の件(責任役員会議案)可決

主事会議

第56(定期)総会期第19回 4月8日(火)
次回以降の会議

5月13日(火)

各教区

北海道

- ・教区礼拝 5月17日(土)10時半 主教座聖堂・札幌キリスト教会 司式・植松誠主教、説教・宇野徹主教

東北

- ・東北教区婦人会総会 5月15日(木)～16日(金)仙台市秋保「岩沼屋」

東京

- ・第106(定期)教区会選出常置委員 司祭 大畑喜道(長)、司祭 山口千寿、司祭 笹森田鶴、松田正人(書記)、山田益男、寺西裕子
- ・八王子復活教会創立100周年記念礼拝 2008年5月10日(土)10時半 聖餐式・司式:植田仁太郎東京教区主教 説教:五十嵐正司九州教区主教

横浜

- ・5月3日、第67(臨時)教区会にて行われた教区主教選挙は、4人の候補者が推薦され、5回の投票が行われた結果、司祭三鍋裕が当選した。

中部

- ・岡谷聖バルナバ教会聖堂聖別80周年記念礼拝 6月7日(土)13時 司式・森紀旦主教 説教・植松誠主教

京都

- ・第112回京都教区婦人会大会「楽しい教会 共に仕える教会」-愛する・与える・仕える- 6月6日(金)～7日(土)場所ホリディ・イン京都 講師:大郷博師(アブラムの会代表)

関係諸団体**日本聖公会婦人会**

- ・日本聖公会婦人会組織設立100周年記念礼拝と大会『神の息吹きをうけて100年』記念礼拝:2008年6月12日(木)13時 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)説教者:竹田眞主教(前東京教区主教)大会旅行:6月12日(木)16時～13日(金)14時(有馬温泉泊一神戸松蔭女子学院大学チャペル・講演会)

関係施設**国際子ども学校**

- ・開校10周年記念感謝礼拝及び感謝の集い 5月17日(土)10時 場所:中部教区主教座聖堂名古屋聖マタイ教会

その他

ソウル教区主教按手式 5月22日(木)14時
ソウル主教座聖堂 被選主教 金根祥師

† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

主教 パウロ齋藤茂樹(元北関東教区主教) 2008年3月30日(日)逝去(93歳)

司祭 ヨハネ島田忠雄(東京・退職)2008年4月15日(火)逝去(83歳)

第57(定期)総会提出議案

- ・新議員・新代議員歓迎の件
- ・逝去者記念の件
- ・日本聖公会法規の一部を改正する件(第92条)
- ・日本聖公会法規一部改正の件(第10章)
- ・総会細則一部改正の件
- ・日本聖公会祈祷書一部改正、確定の件
- ・日本聖公会祈祷書一部改正の件
- ・聖餐式において用いる詩編を一部改正する件
- ・聖歌集の使用に関する件
- ・日本聖公会祈祷書中の聖婚式と葬送の式において用いる聖書日課等の試用を求める件
- ・現在の日本聖公会11教区を、5つの宣教協働ブロックに編成し、2総会期(4年間)取り組む件
- ・日本聖公会教役者「標準給与表」の作成ならびに「日本聖公会教役者給与支援システム」の実施に向けて作業する準備委員会

- を設置する件
- ・年金維持資金管理委員会設置の件
 - ・世界聖公会平和大会の宣言文の趣旨に賛同し、協働する件
 - ・日本聖公会宣教協議会及びプレ宣教協議会開催の件
 - ・資金名変更の件(「重債務国開発協力資金」を「発展途上国開発協力資金」に変更)
 - ・聖公会生野センターの働きを憶えて祈り、信施奉獻を継続する件
 - ・管区事務所総主事指名承認の件
 - ・常任の委員指名承認の件
 - ・管区審判廷審判員指名承認の件
 - ・2006年・2007年度管区一般会計決算承認の件
 - ・2009年・2010年度管区一般会計予算案承認の件
 - ・収益事業会計2006年・2007年度決算承

- 認の件
- ・収益事業会計2009年・2010年度収支予算案承認の件

ミャンマーのサイクロン被害救援

5月6日新聞報道によれば、5月2日夜から3日にかけて、ミャンマー中・南部を直撃した大型サイクロンによる死者は2万人を超え、行方不明者は約4万1000人になっています。まだ被害状況が十分に把握されていない地域もあり、被災数はさらに増える見通しです。

日本聖公会は、支援活動を計画中のシンガポール教区と連絡を取り、とりあえず緊急援助資金より100万円をミャンマー聖公会に送金いたします。

各教区からの募金は管区事務所でお取り扱いいたしますので、ご支援のほどお願いいたします。

《人 事》

北関東

執事 ミカエル浅見卓司	2008年2月16日	司祭に按手される
司祭 ミカエル浅見卓司	2008年2月16日付	東松山聖ルカ教会副牧師に任命する。
東京		
主教 ペテロ植田仁太郎	2008年3月31日付	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂管理牧師解任
司祭 シモン・ペテロ上田憲明	2008年3月31日付	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂チャプレン解任
	2008年4月1日付	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂牧師任命 聖路加国際病院・聖路加看護大学主任チャプレン任命
司祭 ケビン・シーバー	2008年3月31日付	聖路加国際病院・聖路加看護大学・聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂チャプレン補佐解任、
	2008年4月1日付	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂副牧師任命、 聖路加国際病院・聖路加看護大学チャプレン任命
執事 マツテア大森明彦	2008年3月31日付	聖公会八王子幼稚園チャプレン補佐解任
	2008年4月1日付	聖公会八王子幼稚園チャプレン任命

司祭 ピカステス今井丞治	2008年4月1日付	八王子地区ミッショナー委嘱
司祭 サムエル岩前 宏	2008年4月1日付	八王子復活教会囑託委嘱
司祭 イサク小笠原愛作	2008年4月1日付	小笠原聖ジョージ教会囑託委嘱
司祭 バルトロマイ竹内謙太郎	2008年4月1日付	東京聖テモテ教会囑託委嘱
司祭 ペテロ吉村庄司	2008年4月1日付	(社福)滝乃川学園聖三一礼拝堂囑託チャプレン委嘱

聖職候補生 ステパノ卓 志雄 2008年4月1日付 分餐奉仕許可

<信徒奉事者認可および分餐奉仕許可>2008年4月1日付

- (目白聖公会) 小笠原安子、小川昌之、篠宮慶次、高瀬恵介、濱口 俊
 (神田キリスト教会) 日根野慶一
 (東京聖三一教会) 後藤 務、砂田郁郎、中野 誠、村上道夫、矢野敬子、湯田正範
 (東京聖十字教会) 秋山俊哉、打田茉莉、佐藤亘昭、富川 洋、山本克彦
 (練馬聖ガブリエル教会) 足立暁代、五十嵐 潤、伊藤友久、小泉芳久、下柳さやか、平野静子、吉岡敏夫

横浜

司祭 ダビデ島田征吾 2008年3月7日付 大磯聖ステパノ礼拝堂管理牧師任命

大阪

司祭 ヨハネ藤江幸雄 2008年4月1日付 プール学院非常勤のチャプレンとして勤務することを命じる。

神戸

執事 ダビデ林 和広 2008年7月31日付 神戸聖ミカエル教会勤務の任を解く。
 2008年8月1日付 倉敷伝道所牧師補に任命する。

<信徒奉事者認可>

2008年4月1日付
 (徳山聖マリア教会) エリザベツ白銀昭子、ダビデ末永 聡、ピレモン西田史朗

九州

司祭 バルナバ牛島幹夫 2008年2月19日付 厳原聖ヨハネ教会牧師の任を解き、2007年11月23日付公示(戸畑聖アンデレ教会及び八幡聖オーガスチン教会牧師に任命)を解除し、主教座聖堂付きとし、当分の間病気療養を命じる。

司祭 パウロ濱生正直 2008年2月19日付 厳原聖ヨハネ教会牧師に任命する。任期は2008年3月31日までとする。

主教 ガブリエル五十嵐正司 2008年4月1日付 宗像聖パウロ教会管理牧師に任命する。

司祭 アンデレ宇田正行 2008年4月1日付 東北教区より九州教区への移籍を許可する。戸畑聖アンデレ教会、八幡聖オーガスチン教会牧師に任命する。なお、住居は戸畑聖アンデレ教会とする。

司祭 ペテロ宮本憲二郎 2008年3月31日付 願いにより休職を認め、主教座聖堂の勤務を解く。

沖繩

司祭 モニカ石原絹子	2008年3月31日付	定年により退職とする
主教 ダビデ谷 昌二	2008年4月1日付	首里聖アンデレ教会管理牧師の任を解く
司祭 パトリック姜 勇求	2008年4月1日付	首里聖アンデレ教会副牧師の任を解き、同教会牧師とする。
司祭 ルカ鬼本照男	2008年4月1日付	ミカエル津留孝夫司祭管理のもとで、祈りの家教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 マッテヤ高良孝誠	2008年4月1日付	ヨハネ棚原恵正司祭管理のもとで名護聖ヨハネ教会において囑託司祭として主日勤務することを委嘱する。(任期1年)

管区

総会代議員変更

沖繩教区信徒代議員 (新) イレーネ高嶺初子 (旧) アンデレ富本盛彦

第57(定期)総会補助書記任命

司祭 浅見卓司(北関東)、聖職候補生 卓志雄(東京)、聖職候補生 中村 淳(東京)、
聖職候補生 松田 浩(横浜)、聖職候補生 吉川智之(横浜)

《教会・施設》

聖公会神学院	2008年3月31日付	主教 加藤博道、校長代行退任
	2008年4月1日付	司祭 広谷和文、校長に就任
林間聖バルナバ教会(横浜)	FAX 番号変更	042-742-8360(電話と共通)
市川聖マリヤ幼稚園(横浜)	2008年3月31日付	ロイス藤林範子園長定年退職
	2008年4月1日付	セシリヤ石郷岡紀代園長任命
大牟田聖マリア教会(九州)	郵便物宛先	久留米聖公会気付
リデル・ライト記念老人ホーム	2008年4月1日付	名称変更 (新) リデルライトホーム

日本福音ルーテル教会・日本聖公会 合同礼拝

- 『共同の宣教に召されて』出版記念 -

2008年5月11日(日・聖霊降臨日)

場所：日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会

第一部(15:00-16:30)

- 1) 日本聖公会の紹介
- 2) 日本福音ルーテル教会の紹介
- 3) 対話の意味と成果

第二部(17:00-19:00)

礼拝：テーマ「共に食卓をかこむ」

司式：日本聖公会首座主教 植松 誠・同エキュメニズム担当主教 加藤博道

説教：「キリストにあって一つ」ルーテル教会牧師 徳善義和



『共同の宣教に召されて』(聖公会・ルーテル教会対話、合意文書集) 教文館 5月7日発売



聖公会神学院 新年度の出発に当たって

校長 司祭 ミカエル 広谷 和文

4月7日、9名の新生を迎えて、入学礼拝が行われました。一度に9名もの入学は久しぶりのこと。校舎には夜遅くまで賑やかな声が聞こえています。そのような声を耳にする度、ここで生まれるであろう様々な出会いや真理探究への熱いドラマを思い、心躍る思いがします。

この入学礼拝に合わせ、私も本校の校長に就任致しました。母校の教学の責任を担うことを光栄に思い、微力ながらその職責を果たしていきたいと願っております。ことにこの数年来、本校で起こった不幸な出来事とそれを通して問われて来た事柄を可能な限り正確に受け止め、真剣に向き合っていきたいと思えます。

さて、この問われて来た事柄の経緯は一見非常に複雑です。しかしその根は意外と単純なところにあるのではないかなと思えてなりません。それは、例えばパウロが「コリントの信徒への手紙 一」13章で語っているような肝心要のことが本校の教育現場の中で忘れられ、抜け落ちてしまっていたのではないかなという反省です。

もちろん制度面の見直しも必要でしょう。そのためハラスメント再発防止のための機関も整えられつつあります。その他の改革にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。しかし、これ

らの制度面での見直し、改革は最終的なセーフティネットであって、それらが完備すれば問題が解決するなど考えることはできません。私たちは何よりも、人として、キリスト者として、神によって定められた共通の「低み」に立ち、この「低み」から神学教育の新たな営みを開始する必要があると思えます。

問われて来た事を振り返ってみれば、それは確かに本校の神学教育の危機であったと言わざるを得ません。その中で苦しんできた人々の苦しみを忘れることはできません。しかし、その危機を神学教育の重要性を改めて考え、そのことを日本聖公会の多くの方々に訴えるチャンスに変えることは、私たちの責任です。

当然のことながら教育現場には厳しさが必要でしょう。しかし、もっと大切なのは、その厳しさの中にも、学生と教員が、学生同士、教職員同士が互いの人格を尊重し合いながら切磋琢磨する、そのような深い信頼関係であると私は思います。

聖公会神学院のため、特に新しい年の歩みを始める神学生と教職員のため、皆さまのご理解、ご指導、お祈りを切にお願い致します。

+ + + + +



ウイリアムス神学館 新年度の出発にあたって

館長 司祭 ヨハネ 吉田 雅人

2008年4月9日(水)、ウイリアムス神学館は5名の新生を迎えて新学期が始まりました。

神学館は2005年度入学者3名、2006年度入学者0名、2007年度に1名の入学者(1年間の特別聴講生)がいましたが、本年3月に

全員が牧会の現場に巣立っていきました。ですから、2008年度は在校生がおらず、新生だけのスタートになりました。

今年度の新生は男性4名・女性1名ですが、年齢的には20歳代から60歳代までと、非

常にバラエティーに富んでいます。筆者が神学生の頃(約30年前)は大学等を卒業してそのまま神学校に入学する人も多く、年齢差は10年もなかったように思います。けれども、ここ10年ぐらいの傾向でしょうか、10～20年の社会人生活を経験して志願される方や、第二の人生を神様と教会に献げようと志願される方が増えてきているように思います。

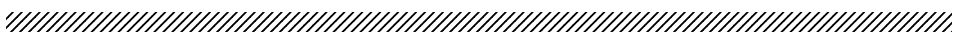
このこと自体は素晴らしいことだと思います。しかし、従来の神学教育の中では考慮していなかったことも起こりつつあります。それは社会人生活や信仰生活の幅の相違からくることであったり、体力面や学習面での幅の相違からくることからです。つまり、30年前なら比較的似たような年齢・経験・物の考え方をしていると思われた人々のグループであったものが、良い意味でもそうでない意味でもとても多様になっており、その違いから学ぶことも多い反面、相互の差異を認め合うのに時間が要するといったことでしょう。ですから、神学教育は現在の神学生の多様な状況を考慮しつつ、なされることが求められていると思います。

神学館がその状況に十分に対応できているとは言えないかもしれませんが、それでも次のよう

なことに心掛けていきたいと思っています。一つは、出来る限り丁寧に学び合うこと。二つ目は、出来る限り自分の言葉で語り伝えることができるように取り組むことです。つまり専門用語を用いて話し合うことは比較的容易かもしれませんが、牧会者・宣教者を目指す私たちは、より多くの人々がより理解できる言葉や方法を考え、それに基づいて福音であれ自らの意見であれ、他者に伝える努力をすることが必要だと考えるからです。

また神学館での生活を通して、体で学んでいただきたいことがあります。それは互いに仕えるという姿勢・生き方です。それは礼拝生活だけでなく寮生活の隅々で体験的に学んでいただきたいのです。またこの姿勢を養うことは、キリストの謙遜に学ぶことでもあります。

私自身、「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。(マルコ10:45)」という御言葉を大切にしながら、「自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。(ルカ17:10)」と、心の中で言える者でありたいと思います。



日韓協働委員会の回顧と展望 - 委員長職を終えて -

ソウル教区被選主教 ^{キム グン サン} 金根祥(同委員会韓国側委員長)

ゆたかで見事に咲いた桜の残骸を踏みながら白金のもの静かな道を歩きました。1983年、在日韓国・朝鮮人を悲しく放ったらかしておいた日本人に対する憎しみを抱いたまま、初めて第1回日韓聖公会セミナーに参加した時を思い出します。それ以前にも1972年と1973年、2度にわたって日本の大学生たちがワークキャンプに来韓した際に交流を経験しましたが、その中にはBSA16支部という立教大学の学生たちもいまし

た。しかし、自分の信仰のアイデンティティを模索するなかで、日本だけは一度くらいしっかりと懲らしめてやるべき対象として残っておりました。ところが、日本に残った朝鮮の人々のため、何時までも何か出来るだけの事をしようと努める方々が日本聖公会に存在していて、その方々の告白を伺ってから、私はむしろ日本聖公会に希望を持つようになったのです。

とても困難な働きを日本聖公会が担っていた

のです。誰もしようともせず、むしろ非難されるばかりの働きに目を向け、信仰の立場から努めていたのです。そこで私は、以前とは違って日本聖公会が抱えていた悩みを自分のものとして受け入れるようになりました。

当時井田泉司祭が「韓国と日本はカインとアベルのような運命を持っている」と血を吐くように言われたお話から、私は誰がカインでも誰がアベルでも、両方が兄弟である事実を認めることこそ何より大切だということに気づかされました。歴史は、ときにはそのように敵対させる結果をもたらします。しかし、聖霊のみ業は違います。状況がいくら悪くても、別れて隔たれた人々、敵対している兄弟を和解させて赦すようにして、お互いに抱きしめあわせるのです。そこには別に赦しを乞うなり、あるいは赦してあげるという手続きのような形式などは重要ではありません。ただそつと近寄ってお互いに姉さんや兄さんになってくれれば、それだけで良いのではないのでしょうか。

交流を続ける中で、ときには、日本人特有の会議文化や相手を過度に気配りする態度に癩癩を起す時もありましたが、長い歳月をそのように生きてきた友たちに自分の口に合うことを期待してはいけないうことも分かりました。逆に、時々韓国人たちのだしぬけな行動や考えに慌てないように、日本の皆様のご理解を求めたいと思います。こちら長い年月をそのように過

ごして来たので、簡単に変えることは出来ません。ただそのように生きていくしかないのです。

幸いに、私たちの交流が若者にまで広がりました。とても素晴らしいことです。彼らはとても重要な経験をしています。人間に対する信頼と愛、そして共に作るべき未来についてお互いを意識しながら交流をしています。これからはその交流がもっと下がって中高生や小学生まで広がったと思います。

もう両聖公会の協働交流は24年になりました。私が第5期目、6期目の委員長を務めました。その間に苦労した李在賢(イ・ジェヒョン)さん、方承喜(バン・スンヒ)さん、李善徳(イ・ソンドク)さんに心から感謝申し上げます。私は委員長職を離れますが、委員長を務めたときよりも、主教として日韓の協力のため更なる力添えが出来ることを心決めております。東北アジアにおいて、ひいてはアジア全域の働きのため、世界聖公会のなかで感動的な宣教を成し遂げるため、日本聖公会の皆様ともう一度力を合わせていきたいと願います。日本の皆さんに大きな望みを寄せます。

本稿を掲載することができたのは、ひとえに立教大学柳時京司祭のお力添えによるものです。金根祥師への執筆依頼・原稿の日本語訳をくださった柳司祭に感謝いたします。(広報主事)

2008年新任「人権」研修会報告

司祭 バルトロマイ三浦恒久(管区人権担当者)

- ・とき ; 2008年4月2日(水)~4日(金)
- ・ところ ; 富士見集会所(埼玉県狭山市)日本聖公会川越キリスト教会(埼玉県川越市)
- ・主な内容
2日(水) 聖書の学び、狭山事件事前学習
3日(木) 石川一雄さんのお話、狭山事件

- 現地学習、ハラスメントについて
4日(金) 中川差別発言について、聖餐式
- ・参加者
聖公会神学院卒業者1名、ウイリアムス神学館卒業者5名、スタッフ4名

狭山事件が問いかけるもの

狭山事件が起こったのは、今から45年前の1963年でした。今回の研修会の参加者の中には、この事件が起こった年以後に生まれた方も多く、事前学習のために鑑賞したビデオ『狭山事件』(曹洞宗作成)は、事件の全体像を知るのに有益でした。また、現地学習を通してこの事件が部落差別にもとづく冤罪であるとの思いを強く持ちました。

この事件は、埼玉県狭山市で女子高校生が誘拐殺害され、警察は身代金を取りに来た犯人を包囲しながら取り逃がすという失態を演じてしまいます。警察はその威信にかけ、犯人を逮捕しようと躍起になり、狭山市にある被差別部落を集中的に見込み捜査をして、被差別部落の青年、石川一雄さん(当時24歳)を逮捕しました。

石川一雄さんは、警察による強要と甘言によってウソの自白をさせられ、浦和地裁で死刑の宣告を受けました。しかし、翌1964年、東京高裁の審理の冒頭で石川一雄さんは無実を主張しましたが、1974年の高裁判決は無期懲役でした。その後、最高裁は上告を棄却し、再審請求が繰り返されてきましたが、取り上げられることはありませんでした。現在、最高裁に対して第3次再審請求が提出されています。石川一雄さんは1994年に仮出獄されましたが、裁判所と検察庁に対して再審と証拠開示を求め、活動しておられます。そして、その活動に連帯することをわたしたちに求めておられます。

石川一雄さんの手には、今もなお殺人犯として見えない手錠がかけられています。狭山事件は部落差別にもとづく冤罪事件です。このことを国が認めない限り、同じようなことが繰り返されます。わたしたちは預言者的な視点をもって、狭山事件の行末を注視していきましょう。国が間違った方向に行かないよう警鐘を鳴らし続けていきましょう。狭山事件はそのようなことをわたしたちに問いかけています。

ハラスメントを防止するために

今回は、管区の女性に関する課題の担当者である木川田道子さん、山野繁子司祭がお出

でくださり、ハラスメントとは何か、ハラスメントが起こらないためにはどうすればいいのか、ということをご一緒に考えました。お互いに確認し合ったことは、ハラスメントとは「相手の望まない言動によって相手の心や体を傷つけること」であり、それは「力の差を背景にノーと言えない関係の中で起こる」のだということです。しかも、ハラスメントはどこにでも起こりうることで、教会も例外ではないということです。ハラスメントを防止するためには「力の差を自覚すること」が肝要なのです。

教会は差別をする

「中川差別発言について学習しましたか」という質問に対して、「していない」という答えが返ってきました。この差別事件は、日本聖公会総会で起こった部落差別にもとづく結婚差別発言事件です。日本聖公会が持つ差別体質を暴露した事件でした。「していない」という聖職候補生がおられる限り、この新任「人権」研修会の持つ意義は大きいと思います。

教会は差別をしないという人がいるならば、それは幻想です。教会は差別するのです。中川差別発言についての学習は、教会は差別するのだということをわたしたちに想起させてくれる機会となるのです。

(参加者の感想) + + +

新任「人権」研修を終えて

聖職候補生 オーガスチン與賀田光嗣

先日行われた新任「人権」研修ですが、狭山事件の石川さんご本人のお話を伺えたことが印象的でした。三十余年に及ぶ苦悩や希望を語られる姿。個の体験を、決して一般化、普遍化せず、個の体験として語られる姿に感じるものは大きいものがありました。

しかしながら、私には一つのことが残念でした。それは、石川さんが強要された自白とされ

るものと実際の現場はどうだったか、という現場検証プログラムでのことです。強姦殺人事件ということで、被害者の遺体発見現場の確認も行いました。民家の庭でしたので、大きな声で話すことはできません。ですが、黙祷を捧げることはできます。ところが研修担当者の方々誰一人からも黙祷を捧げる素振りが見られません。談笑しておられます。せめて事前に、もしくは事後に、「被害者のことを祈りに覚えよう」との一言があればと思うのです。

つまりこの研修には、祈りがないわけです。生者に対するのと同じく、死者にも思いを捧げる、これが宗教が宗教である基軸であるはずです。いえ、チェスタンが指摘しますように人権思想においても同様です。まして研修に集まった私たちは宗教者たろうとしている人間であります。

歴史を省みますと、自由で平等な社会を作るためには、個々人がそれが可能である(生来人

権を持つ)と信じる(契約関係を結ぶ)ことと、社会(国家)が人権を保障することの両方が必要であり、具体的に実現させているのが後者、それを具体化させる契機が前者であることがわかります。故に近代国家に生きる私たちにとって、人権という物語は必要不可欠であり、自然法的信仰が求められるのです。

同時に私たちは、人間の契約関係によって構築された「生きる権利」の世界だけでなく、神によって「生かされる恵み」を与えられた世界にも住んでいます。この恩寵を信じることにより、他者の自由と平等を覚えるのです。二つの世界に同時に住む私たちは、しかし二者択一ではないありかたで、自由と平等を祈り求めねばなりません。今なお弾圧下にある人々、殊に虐殺下のチベットへの思いを巡らしていきたいものです。(神戸教区・神戸聖ミカエル教会勤務)

「フィルター越しにではなく、あなた自身の、その目で…」

- 「沖縄週間 / 沖縄の旅」に向けて -

岐阜聖パウロ教会司祭 ヨセフ下原太介(「沖縄の旅」スタッフ)

沖縄には安保の丘という場所があります。そこは、極東最大規模の米軍基地である嘉手納基地のすぐ脇にあり、日々、基地内で離着陸を繰り返す無数の軍用機を見下ろすことのできる小さな丘です。

私は「沖縄週間 / 沖縄の旅」を通じて、数度、その安保の丘を訪れました。そして、その丘の近くにある道の駅の屋上から、地響きを発して、沖縄の青い空を引き裂いて飛び立つ数台の戦闘機を目の当たりにしました。その時、売店のおばさん、ベンチに腰掛けているおじさんが耳を塞ぎ、動きを止めて、戦闘機が通り過ぎるのをやり過ごそうとしている姿を見て、こう思いました。「この戦闘機が爆音を発して引き裂いているのは、沖縄の青い空ではない。それは、沖

縄に暮らす全ての人々の心と暮らした!!」と。私は、そのように思い、青い空の彼方に消えていく戦闘機を見つめていました。

すると、言い知れぬ憤りを感じている私の隣で、「カシャ!カシャ!カシャ!」という軽いシャッター音が響きました。私は、その音が気になり、隣りを見ると、一眼レフの高性能カメラのファインダーを覗き込み、懸命にシャッターを切る数人の人々がいました。「今のは 戦闘機だ!俺は、以前に 戦闘機を見たことがある!」などと互いに話し、ヒーロー自慢をする子どものように目を輝かせていました。

正直、私にとって、不気味に黒光りする戦闘機よりも、その戦闘機へ無邪気に憧れを抱く、その人々の目の輝きの方が衝撃的でした。確か

に、現代工学の集大成とも言える米軍の戦闘機は最高の人工物かもしれません。その素晴らしさは、人々の心を捕らえて離さないこともあるでしょう。しかし、私たちは、その戦闘機が何を生み出すものなのかということを絶対に忘れてはなりません。たとえ、現代工学の集大成とも言える最高の人工物であっても、人々の空への憧れを叶える素晴らしい乗り物であっても、それが戦闘機である以上、戦闘機である限り、それは最高の人工物でも、素晴らしい乗り物でもありません。それは最低の凶器であり、最悪な乗り物以外の何ものでもありません。それは、絶対に目を輝かせて仰ぎ見るようなものでも、歓喜して写真に留めるようなものでもないはずです。なぜ、そのことを彼らは気付くことができないのでしょうか？それは、彼らが、その戦闘機の姿をカメラのファインダーを通してのみしか見ることができず、その戦闘機がもたらす本当の現実を見ることができていないからではないでしょうか。彼らが、そのカメラを片手にイラクへ行ったら、そのイラクの空の下で、戦闘機の飛び交う空の下で、目を輝かせ、歓喜し、シャッターを切ることができるでしょうか。

実は、このことは本土に暮らし、報道、テレビ、雑誌などのフィルターを通してしか沖縄を見ることのできない私たちにも共通している危険性でもあるのです。「沖縄は南の楽園」、「常夏の夢の島」、そんなキャッチ・フレーズが本土の私たちの身の周りには溢れています。そのフィルターによって、私たちは悲惨な沖縄の歴史にも、現状にも、未来にも目を塞がれています。沖縄を訪れ、沖縄の現実を垣間見ることは、そのフィ

ルターを外すことになります。私たちは本土から望遠レンズのカメラを構え、ただ沖縄の美しい海や空にシャッターを切るだけでは許されないのです。安保の丘の、彼らのようではならないのです。絶対に…。

「戦闘機って格好良い？」

戦闘機って格好良い？
風より早く飛べるから？
雲より高く飛べるから？

でも、乗りたいなんて思わない。
風邪よりたち質が悪いから。
蜘蛛より気味が悪いから。
本当はいらぬものだから。

風より早く飛べなくたって、
雲より高く飛べなくたって、
それで良い、それが良い。
誰も泣く人いないから。
誰も死ぬ人いないから。

風より早く飛べなくたって、
雲より高く飛べなくたって、
僕は蝶々の背に乗ってユラユラ空を飛んでいたい。

皆が笑ってくれるから。
皆が暮らしていけるから。